

統合分野

在宅看護論

2年全期
4単位（90時間）

目的

地域で生活する健康な人々や、疾病や障害を持つ人々とその家族を理解し、対象の主体性や自己決定を尊重しながら、日常生活を営めるように援助するための基礎を学ぶ。

目標

- 1 在宅看護の概念と変遷を理解できる。
- 2 在宅看護の活動の場と手段を理解できる。
- 3 個人・集団の健康の意味が理解できる。
- 4 疾病や障害を持ちながら療養する人々と家族を理解できる。
- 5 対象のセルフケア能力を高めるための支援を理解できる。
- 6 地域の社会資源の活用や保健・医療・福祉の連携が理解できる。

教科目の構成

| | | |
|-------|----------|-----------|
| 在宅看護論 | 在宅看護の対象 | 2単位（30時間） |
| | 在宅看護援助論Ⅰ | 1単位（30時間） |
| | 在宅看護援助論Ⅱ | 1単位（30時間） |

統合分野

| | | | |
|-------|--------------|------|---------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 在宅看護の対象 |
| 単位・時間 | 2単位 30時間 | 対象学年 | 2年（前期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院9年 | | |

在宅看護の対象 2単位（30時間）

・設定期由：在宅看護の概念と変遷を理解し、現代に合った在宅看護を考える。

在宅看護の対象を理解し、健康のレベルに応じた看護の役割を学ぶ。

また、保健・医療・福祉の連携について学び、看護の可能性を考える。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|-----------------------|-----|--|------|------|
| 1 在宅看護の概念と変遷を理解する。 | 15 | 1 在宅看護の概念 2 在宅看護の位置づけ 3 在宅看護の歴史 4 プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション 5 現代社会と在宅看護 6 在宅看護の展望と課題 | 講 義 | 試 験 |
| 2 在宅看護の対象を理解する。 | 7 | 1 家族の機能 2 現代の家族 3 家族看護の視点 4 在宅療養者と家族 5 在宅看護における倫理 | | |
| 3 看護活動と看護を提供する場を理解する。 | 8 | 1 公衆衛生看護、学校看護、産業看護、在宅看護 2 外来看護 3 訪問看護 4 保健・医療・福祉の連携 5 国際生活機能分類（ICF） 6 関係職種との連携 7 在宅看護に関連する法律 | | |

テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

統合分野

| | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 在宅看護援助論 I |
| 単位・時間 | 1 単位 30 時間 | 対象学年 | 2 年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院 9 年 | | |

設定理由：対象の主体性や自己決定を尊重することの大切さを理解し、対象の健康状態と生活状況を考慮した援助の実際を学ぶ。

在宅における看護が実践できるための看護過程の展開について学ぶ。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|-----------------------|-----|---|------|------|
| 1 対象者の生活と価値観を理解する。 | 6 | 1 日常生活の観察と理解 2 価値観の尊重 3 コミュニケーション 4 相談面接援助 | 講 義 | 試 験 |
| 2 日常生活のアセスメントを理解する。 | 6 | 1 住居 2 食生活 3 排泄 4 清潔 5 活動と睡眠 | | |
| 3 セルフケア能力を高める支援を理解する。 | 8 | 1 個人指導 2 集団指導 3 介護用品の活用 | | |
| 4 看護過程の展開ができる。 | 10 | 1 在宅における看護過程 2 事例による看護過程の展開 | | |

テキスト 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院

統合分野

| | | | |
|-------|---|------|----------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 在宅看護援助論Ⅱ |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年 | 2年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 2) 3) 4) | | |
| 実務経験 | 1) 看護師として附属病院 18年、他病院 5年 2) 看護師として附属病院 15年 3) 看護師として附属病院 31年 4) 看護師として附属病院 23年 | | |

設定理由：療養者が在宅で生活する意味を考え、日常生活を送れるような看護の基本的態度・知識・技術を学ぶ。また、家族も看護の対象として支援することを理解し、家族看護の実際を学ぶ。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--------------------|-----|--|------|------|
| 1 日常生活の援助ができる。 | 10 | 1 生活リズムと日課 2 バイタルサインと全身状態の観察 3 療養環境の調整 4 食事への援助 5 排泄への援助 6 清潔・衣生活への援助 7 移動動作への援助 8 睡眠への援助 | 講 義 | 試 験 |
| 2 医療処置に関連した援助ができる。 | 20 | 1 在宅酸素療法 2 在宅人工呼吸療法 3 CAPD療法 4 ストーマケア 5 褥瘡ケア 6 経管栄養 7 在宅中心静脈栄養 8 寝たきり療養者の看護 9 難病療養者の看護 10 認知症療養者の看護 11 感染症療養者の看護 12 リハビリテーション 13 服薬管理 14 緊急時のケア 15 終末期の看護・緩和ケア | | |

統合分野

在宅看護論実習

2年後期・3年前期

2単位（90時間）

目 的

地域で生活する看護の対象を理解し、発達段階、健康レベルに応じた看護を実践するための看護実践能力を養う。

目 標

- 1 地域で生活する看護を必要とする対象が理解できる。
- 2 対象の健康問題がわかり、健康レベルに応じた看護が実践できる。

統合分野

| | | | |
|-------|----------------|------|-----------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 在宅看護論実習 I |
| 単位・時間 | 1 単位 45 時間 | 対象学年 | 2 年（後期） |
| 方法 | 実習 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院 9 年 | | |

目 的

地域で生活する人々の健康の保持、増進、疾病予防のための知識を養う。

目 標

- 1 地域で生活する看護を必要とする対象が理解できる。
 - 1) 対象者が生活していく上で必要としている支援がわかる。
 - 2) 利用者の思いがわかる。
- 2 対象の健康の保持増進と疾病予防活動が理解できる。
 - 1) 活動内容がわかる。
 - 2) 問題状況に対するかかわり方がわかる。
- 3 関連機関の機能・役割がわかる。
 - 1) 対象にかかわる機関の機能・役割がわかる。
 - 2) 法的根拠や目的がわかる。
- 4 「健康」について考えることができる。
- 5 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 保健福祉事務所での実習を 1 日行う。
- 3 市町村保健センターでの実習を 2 日行う。
- 4 健康診断が行われている場での実習を 1 日行う。
- 5 病院外来での実習を 1 日行う。
- 6 地域と医療の連携にかかわる職種からのオリエンテーションを受ける。
- 7 実習のまとめを行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

在宅看護論実習 I の評価表を用いる。

統合分野

| | | | |
|-------|--------------|------|----------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 在宅看護論実習Ⅱ |
| 単位・時間 | 1単位 45時間 | 対象学年 | 3年（前期） |
| 方法 | 実習 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院9年 | | |

目的

地域で生活する看護を必要とする人々に対して、対象に応じた看護を提供するための看護実践能力を養う。

目標

- 1 地域で生活する看護を必要とする対象が理解できる。
 - 1) 利用者の健康状態（身体的側面・精神的側面・社会的側面・スピリチュアル的側面）がわかる。
 - 2) 利用者の生活状況がわかる。
 - 3) 家族や介護者の生活状況がわかる。
- 2 利用者が安全で安心した療養生活を継続するために必要な援助について理解できる。
 - 1) 利用者の自立やQOLを維持向上するための援助がわかる。
 - 2) 家族の介護力を引き出し維持できるような援助がわかる。
 - 3) 生活の場で行われている看護の工夫点がわかる。
 - 4) 在宅ケアにおける看護職の役割と課題がわかる。
- 3 関連機関の機能・役割がわかる。
 - 1) 対象にかかわる機関の機能・役割がわかる。
 - 2) 法的根拠や目的がわかる。
- 4 「その人らしく生活する」ことについて考えることができる。
- 5 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる。
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 訪問看護ステーションでの実習を4日行う。
- 3 訪問看護ステーションでの実習では在宅で生活する医療を必要とする人を受け持ち、看護を実践する。
- 4 地域包括支援センターでの実習を2日行う。
- 5 実習のまとめを行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

在宅看護論実習Ⅱの評価表を用いる。

看護の統合と実践

3年全期

4単位（105時間）

目的

既習の知識・技術を統合し、よりよい看護を実践する能力を養う。

目標

- 1 対象の状態に応じた看護を実践するための知識・技術を習得する。
- 2 看護管理の基礎が理解できる。
- 3 広がる看護の活動領域・看護活動を理解する。
- 4 既習の知識・技術を統合し、よりよい看護活動・よりよい看護の場を探究する。

教科目の構成

| | | | |
|----------|---|----------|-----------|
| 看護の統合と実践 | — | 臨床看護の実践Ⅰ | 1単位（15時間） |
| | | 臨床看護の実践Ⅱ | 1単位（30時間） |
| | | 看護管理 | 1単位（30時間） |
| | | 看護の活動領域 | 1単位（30時間） |

統合分野

| | | | |
|-------|-----------------|------|-----------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 臨床看護の実践 I |
| 単位・時間 | 1 単位 15 時間 | 対象学年 | 3 年（前期） |
| 方法 | 講義・演習 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院 14 年 | | |

設定理由：既習の知識・技術を統合し、患者に合った看護を実践する能力を養う。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--|-----|---|------------|------|
| <p>1 患者の状態をアセスメントし、看護計画を立案できる。</p> <p>2 立案した看護計画に基づき援助できる。</p> <p>3 看護計画・看護実践能力を評価し、自己の課題を明確にする。</p> | 15 | <p>1 事例展開</p> <p>1) 事例の患者を情報解釈し、どのような状態にあるかを理解する。</p> <p>2) 看護計画を立案し、実践できるように具体的に援助計画を考える。</p> <p>3) 援助計画に沿って、援助を実践する。</p> <p>2 事例展開の振り返り</p> <p>事例</p> <p>肝硬変—浮腫がある患者</p> <p>心不全—呼吸困難がある患者</p> <p>脳梗塞—片麻痺がある患者</p> <p>糖尿病—血糖コントロールが必要な患者</p> | 講 義 演 習 | 試 験 |

統合分野

| | | | |
|-------|---------------|------|----------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 臨床看護の実践Ⅱ |
| 単位・時間 | 1単位 30時間 | 対象学年 | 3年（後期） |
| 方法 | 講義・演習 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院12年 | | |

設定理由：卒業時に求められる知識・技術を習得する。さらに、リスクマネジメント能力、倫理的判断能力を活用し、患者の状態に合った看護を実践する能力を養う。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--|-----|--|------------|------|
| 1 到達度Ⅱの技術が実践できる。 | 10 | <p>1 到達度Ⅱの看護技術</p> <p>1) 到達度Ⅱの技術到達に向けて事例をアセスメントする。</p> <p>2) 事例の状態にあった看護技術を実施する。 (看護技術の目的、必要物品、手順、観察点、留意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嚥下障害のある患者の経管栄養法 (経鼻胃チューブの挿入・確認) ・尿閉の患者の導尿（無菌操作含む） ・便秘の患者の浣腸 ・意識障害のある患者の口腔内・鼻腔内吸引 | 講 義 演 習 | レポート |
| 2 到達度Ⅲ・Ⅳの技術の根拠・方法を理解できる。 | 10 | <p>2 到達度Ⅲ・Ⅳの看護技術</p> <p>1) 看護技術の目的、必要物品、手順、観察点、留意事項を学習する。</p> <p>2) 看護技術を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着中の患者の看護（体位ドレナージ、気管内吸引） ・皮下注射（誤薬防止、針刺し事故防止を含む） ・筋肉内注射（誤薬防止、針刺し事故防止を含む） ・静脈血採血 ・点滴静脈内注射 | 講 義 演 習 | レポート |
| 3 事例や看護場面からリスクマネジメント・倫理的対処について検討し、実践できる。 | 10 | <p>3 複数患者受け持ち事例展開</p> <p>1) 事例から複数患者の看護の優先度を考慮し、一日の行動計画を立案する。</p> <p>2) 複数技術や複数患者の援助を優先度や時間配分を考え実践する。</p> <p>事例</p> <p>肝硬変—浮腫がある患者</p> <p>心不全—呼吸困難がある患者</p> | 講 義 演 習 | レポート |

| | | | | |
|--|--|------------------------------------|--|--|
| | | 脳梗塞—片麻痺がある患者 糖尿病—血糖コントロールが必要な患者 | | |
|--|--|------------------------------------|--|--|

統合分野

| | | | |
|-------|--|------|---------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 看護管理 |
| 単位・時間 | 1 単位 30 時間 | 対象学年 | 3 年（前期） |
| 方法 | 講義・演習 | | |
| 講師名 | 法人講師 1) 専任教員 2) | | |
| 実務経験 | 1) 看護師として附属病院 40 年 2) 看護師として附属病院 21 年 | | |

設定理由：看護管理の要素と技術を学び、マネジメントに活かす能力を養う。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|--|-----|--|------|------|
| 1 看護管理の要素が理解できる。 | 12 | 1 看護管理の目的 2 病院看護管理 1) 病院組織・看護管理 2) 病棟業務・看護長業務 3) 患者管理 4) 看護体制 3 医療チーム 1) 他職種との連携 2) リーダーシップ、メンバーシップ 4 看護管理の技術 | 講 義 | 試 験 |
| 2 望ましい病院を構築することで、ケアマネジメントと組織マネジメントの知識を理解できる。 | 6 | 5 既習の知識を活用し、望ましい病院を構築し発表する。 1) 病院の設定・地域との関係 2) 病棟 3) 病室 4) 看護体制 5) 災害看護 6) 医療安全対策 | 講 義 | レポート |
| 3 リスクマネジメントの知識と技術を習得する。 | 6 | 6 リスクマネジメント 1) 事故防止の考え方 2) 診療の補助に伴う援助技術と事故防止 3) 医療用機器使用の事故防止 4) 療養上の世話における事故防止 5) 感染予防対策 7 倫理的問題への対処 | 講 義 | レポート |
| | 6 | 8 事例展開 1) 転倒・転落防止のマネジメント 2) 誤薬防止のマネジメント 3) 患者誤認防止のマネジメント | | |

| | | | | |
|--|--|------------------|--|--|
| | | 4) スタンダードプリコーション | | |
|--|--|------------------|--|--|

テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕 看護管理 医学書院
系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全 医学書院

統合分野

| | | | |
|-------|--|------|---------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 看護の活動領域 |
| 単位・時間 | 1 単位 30 時間 | 対象学年 | 3 年（後期） |
| 方法 | 講義 | | |
| 講師名 | 外部講師 1) 2) 専任教員 4) | | |
| 実務経験 | 1) 看護師として他病院 31 年 2) 看護師として他病院 25 年 3) 看護師として附属病院 10 年 | | |

設定理由：看護の領域・役割・場を理解し、国際協力や災害場面の看護を考える能力を養う。

| 単元目標 | 時間数 | 学 習 内 容 | 授業形態 | 評価方法 |
|----------------------|-----|---|------|------|
| 1 災害看護と国際看護の基礎を理解する。 | 20 | 1 災害とは 1) 定義 2) 種類 3) 疾病構造 2 災害看護とは 1) 災害看護の特殊性 2) 災害支援ナースとは 3) トリアージ 4) 事例を通してトリアージの分類を行う 3 災害サイクルと看護活動 4 災害時の取り組み 5 被災者のこころのケア | 講 義 | 試 験 |
| 2 国際看護の基礎を理解する。 | 10 | 6 国際看護とは 7 世界の健康問題 8 国際社会と看護活動 9 国際協力活動 10 国際医療・看護活動 | 講 義 | レポート |

テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学 医学書院

統合分野

| | | | |
|-------|----------------|------|--------|
| 分野科目名 | 統合分野 | 科目名 | 統合実習 |
| 単位・時間 | 2単位 90時間 | 対象学年 | 3年（後期） |
| 方法 | 実習 | | |
| 講師名 | 専任教員 | | |
| 実務経験 | 看護師として附属病院 10年 | | |

目的

看護の対象を総合的に理解し、医療チームの一員として主体的に看護を実践する能力を養う。

目標

- 1 患者を統合的に理解し、安全・安楽・自立を考慮した援助が実践できる。
 - 1) 24時間の生活を支える看護が実践できる。
 - 2) 複数の患者に援助を実践できる。
- 2 保健医療福祉チームにおける看護のマネジメントが理解できる。
 - 1) 看護チームの役割がわかる。
 - 2) 看護をマネジメントするための方法がわかる。
- 3 看護実践者としての自己を考えることができる。
- 4 保健医療福祉チームの一員として責任ある行動がとれる。
 - 1) 意思表示ができる。
 - 2) 必要な学習を継続できる。
 - 3) リーダーシップ・メンバーシップが発揮できる
 - 4) 適切に必要な報告・連絡・相談ができる。
 - 5) 守秘義務を遂行することができる。
 - 6) 自己の健康管理ができる。
 - 7) 規律を守り、責任と自覚のある行動がとれる。

実習方法

- 1 オリエンテーションで実習目的・目標・方法を確認する。
- 2 実習施設の看護管理者からオリエンテーションを受ける。
- 3 患者を2名もち、看護を実践する。
- 4 実習部署の看護管理者と行動を共にして1日実習する。
- 5 看護チームリーダーと行動を共にして1日実習する。
- 6 夜間実習を2日行う。
- 7 学生、臨床指導者、教員でカンファレンスを1日30分行う。
- 8 学生および教員でグループワークを行う。

事前学習

- 1 実習の目的・目標を確認し、不明な点を明確にする。
- 2 既習の学習内容を復習する。

実習評価

- 1 統合実習の評価表を用いる。
- 2 実習の中期に、学生、臨床指導者、教員で中間評価を行う。